

「どうぞ」と「ありがとう」

四年生の秋だったと思う。学校の帰りにいつもの様に友達と別れて少し混んだ電車に座っていた。すると、途中の駅から、六才ぐらいの男の子と、その男の子のお母さんが乗ってきて、ぼくの近くに立っていた。ぼくは

「どうぞ」

と言いながら席を空けたら、お母さんは、

「ありがとう」

と言って、男の子を座らせた。ぼくは少しはなれた所で立っていた。

五年生の始業式から二・三日たった帰りの電車でその親子にぐうぜん会った。なんとぼくと同じ制服を着て、新しいランドセルを背負っていた。するとお母さんが近づいて来て、「電車で席をゆずってくれたお兄ちゃんと同じ学校に行きたい」

と男の子が言っていたと教えてくれた。男の子は、ぼくの顔をずっと見ていた。一年生になって、きん張っていたのか、四年生の時より大きくなったぼくを忘れてしまった感じの様子だった。

だけど、お母さんはぼくの事をまだはつきり覚えていてくれた。

今までに席をゆずった事は何回もあったけれど、後になってお礼を言われたことは初めてだったから、どう答えていいのかがよく分からなかった。「どうぞ」と「ありがとう」から思いもしない事が起こった。大した事もしていなかったのに電車からおりるまで考えた。だけとお母さんの話はまちがい無くうれしかった。

学校や家でも「どうぞ」と「ありがとう」は言う事がある。この言葉は二つの言葉が一つになっているような気がした。どちらかに心がこもっていなければ今の様な気持ちにはなっていないかっただろう。

たまに男の子を電車で見かける事がある。

「がんばってね」と声をかけようか迷う。「ありがとう」と返してくれるかな。

これからも心のこもった「どうぞ」「ありがとう」の言葉を使いつづけたい。